

アナログ車載機とデジタル車載機を並行運用する場合、以下の点を考慮する必要がある。

【運用方法】

- ・受信はA/Dを同時受信可能とし、送信はAとDを別々に行うことを前提とする。
 - 既設電源を活用するためには、最大消費電力(送信時)を抑えることが必要。
- ・A車載機は一旦撤去し、D車載機を本設した後にA車載機を仮設・可搬とする。

【電源の確保】

- ・A車載機に対するD車載機の送信時消費電力の増加分が既設の車両電源容量の余裕分に収まれば電源の増設は必要ないものと考えられる。
 - 厳密には、車両に艀装されている全装置の消費電力を計算する必要がある。
 - 旧式の高規格救急車が最も既設電源の余裕が少ないと想定される。
 - バッテリーへの外部充電を可能とする回路を設置することも想定される。

【設置スペース】

- ・設置スペースは車両によって異なるが、仮設・可搬であれば確保は可能と想定される。
- ・車両への設置は熟練工が必要であり、計画的な対応が必要。

【空中線】

- ・デジタル用2本(ダイバーシティ考慮)を本設、アナログ用1本を仮設とする。